

●漁況情報

- しらす漁は9月に引き続き好漁で経過しました。漁船によっては1日に200kg以上の漁獲があります。これから来遊量が減る季節になりますので、直売所にお越しの際は「湘南しらす」公式サイト (<https://shonan-shirasu.org/>) をご覧になり、直売所に販売状況をご確認ください。



「湘南しらす」公式サイトへのアクセスはこちら

- 10月20日、長井町漁協及び近隣漁協でアオリイカ曳釣漁が始まりました。長井・大楠・葉山・小坪地区の各浜で産卵礁設置による資源増殖が取り組まれ、また、長井から腰越にかけては、孵化後の小型のイカが多い10月19日まで自主禁漁が行われています。その効果もあってか、好漁時には1日30杯以上釣れるそうです。

●浜の話題

- 10月10日、令和5年度神奈川県漁業士研修会が、横浜のかながわ県民センターで開催されました。漁業者や水産関係者およそ90名の出席がありました。滝口水産技術センター所長と蒲谷漁業士会長のあいさつに続いて、「藻場の再生活動を新技术で支援します」と「黒潮大蛇行による本県海面での水温変化等について」の2題の講演、「2023年8月下旬に出現した有害プランクトン」の話題提供がありました。出席した漁業者からは、磯焼けの進行や大蛇行の終息の見込みに関する質問がありました。



講演①「藻場の再生活動」



講演②「黒潮大蛇行」



90名の参加があり盛況でした

- 10月10日、漁業士会交流懇談会が、ホテルプラムで開催されました。漁業者や水産関係者50名の出席があり、漁模様などの情報交換のほか、他地区参加者との交流を深めていました。



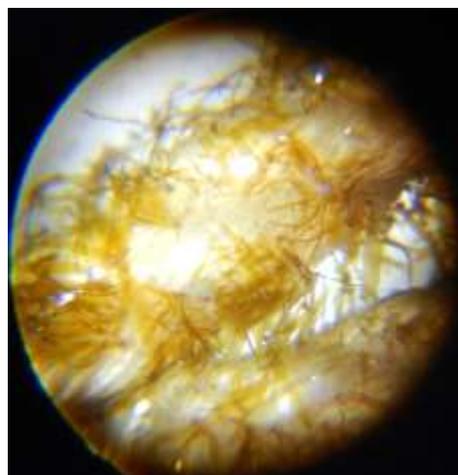
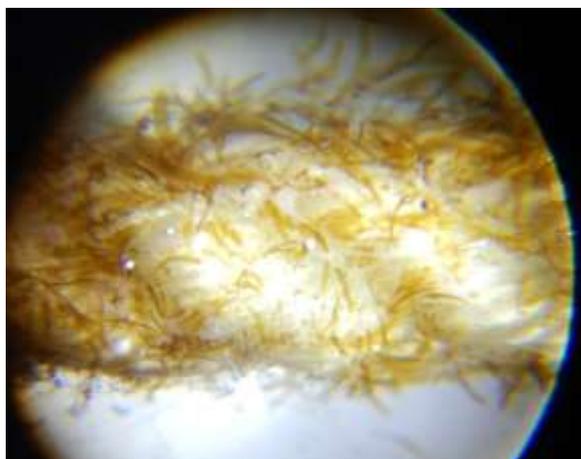
交流懇談会の様子

- 10月11日、三和漁協城ヶ島地区漁業者の協力の下、水産技術センターがカサゴ種苗の放流を行いました。当センターが生産した全長9mm前後の稚魚5,800尾を、地先の適地に種苗放流しました。



カサゴ稚魚を漁船から種苗放流しました

- 10月13,17,19,24日に長井・小坪地区で、ワカメ種系の検鏡を実施したところ、両地区共に芽胞体が多く確認され、中旬以降順次沖出しが始まりました。24日には沖出し後一週間経過した種系の状態を確認しましたが、芽胞体が更に大きく成長している様子が確認できました。なお、小坪地区では海苔養殖に用いる海藻用肥料による施肥を19日以降一部の種枠で試しましたが、一週間で顕著な成長が見られました。また、近年の高水温下での生育不良と終漁期が早まっている対策として、生長の早いワカメと地元天然ワカメの交配種苗を育成し、早期の収穫を目指しています。



陸上水槽で施肥後7日目のワカメ（左）は沖出し後7日目のワカメ（右）と同等の成長が見られました

- 10月中旬から下旬にかけて、横須賀地区では、ワカメ種系の沖出しが始まりました。芽胞体が見えるようになるまで、漁業者は種系を揺すって付着物を除去する作業を今後行っていくこととなります。沖出し後2~3週間で芽胞体が見えるようになり、指先ほどの大きさに育ったら親縄へ種刺しをして、いよいよ本格的なわかめ養殖が始まります。「養殖は、面倒を見るほどいいものが作れる」と種苗生産に卓越した漁業者が話しています。
- 10月24日、小坪漁港に、小坪小学校の5年生の生徒が、総合学習の一環で訪れました。当日は、小坪漁協組合長から磯焼けの海の状況について、ヴェルデ丸の一員から海ぶどう養殖やキャベツウニ、当日沖出ししたワカメ種苗の生産方法等について、それぞれ説明を受けていました。



海ぶどう養殖施設の見学の様子

- 10月19日、腰越漁協が(公財)相模湾水産振興事業団の支援により1万5千個のサザエ種苗を放流しました。当日は放流体験で腰越小学校5年生児童が集まり、サザエの成長や放流物と天然物の識別法について、当センター研究員からの解説を熱心に聞いていました。その後、児童らは漁船に乗り込み、海上で種苗放流しました。当日の様子は同漁協のInstagramに掲載されています。

腰越漁業協同組合Instagram <https://www.instagram.com/koshigoegyokyou/>



サザエの成長や放流物と天然物の識別法について紙芝居を使って説明しました。

- 10月19日、長井町漁協トラフグ延縄漁業者グループ「福会」は、普及員と加藤研究員立会いの下、来年1月9日の漁業者交流大会の活動発表リハーサルと今後の取組み内容の協議をしました。1995年の当地域でのトラフグ延縄漁の幕開けから、2022年の「天然・釣物 相模のとらふぐ」ブランド化に至るまでについての発表を予定しております。



福会の活動発表リハーサルの様子

- 10月26日、長井町漁協宮川組合員(房竹丸)と藤沢市漁協組合長(堀川網)は、東京都千代田区で開催された「地域食材の魅力を紹介する試食提案会」に参加し、釜揚げひじきと湘南はまぐりの魅力を発信しました。参加したバイヤーや有名レストランのシェフたちは、釜揚げひじきの食感や湘南はまぐりの大きさに感銘を受けていたようです。

運営事務局による紹介

<https://rickie-bs.com/works/restaurant-event2023-tokyo/>



釜揚げひじきの特徴を説明



釜揚げひじきの料理を試食



湘南はまぐりの料理を試食

- 10月26日、小田原市漁協刺網部会は研修会を開催しました。「おだわらあんこうカレー事業の報告」や「ヒラメ放流種苗の測定結果」など、小田原市水産海浜課と相模湾試験場の職員から話題提供があり、活発な意見交換が行われました。



話題提供の様子

- 10月27日、藤沢市漁協は、チョウセンハマグリの稚貝調査を行いました。1cm程度の昨年に生まれた稚貝が採捕され、自然の再生産が確認されました。



稚貝調査の様子



稚貝

- 10月28日、平塚市漁協所属の株式会社川長水産の定置網において、県水産課主催の就業希望者を対象とした漁業体験研修が行われました。参加者は操業を見学し、定置網漁業についての理解を深めていました。

定置網のペーパー模型 <https://www.pref.kanagawa.jp/documents/101131/teitimokei.pdf>



定置網の構造の模型による説明



定置網での漁獲作業を見学

- 10月30日、令和5年度神奈川県青年漁業士養成講座第2回漁業制度コースが、県庁水産課で開催されました。青年漁業士候補者に対して、県農水産部水産課職員を講師に、県の水産振興策や水産業活性化指針の解説、水産関係法制度などについて講義が行われました。解説の合間に受講者地先の話題や個別課題等にも触れることが多々あり、充実した内容となりました。

● お知らせ

① 新春漁業者交流大会について

県漁連、神奈川県漁業士会、県の共催による新春漁業者交流大会が次のとおり開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。（参加申込不要、当日受付）

日 時：令和6年1月9日（火）13:00～15:00

場 所：かながわ県民センターホール（横浜駅西口徒歩5分）

内 容：漁業士認定証書授与、漁業者活動発表「かながわのトラフグ延縄漁の幕開け～相模のとらふぐブランド化について」長井町漁協「福会」、漁業士会活動紹介 青年漁業士、講演①「トラフグ資源の動向と底延縄調査結果」水産技術センター技師、②「神奈川県沿岸における藻場と磯根資源の現状」水産技術センター技師

② 令和5年度神奈川県トラフグ研修会について

水産技術センター資源管理課では、12月5日に「トラフグ研修会」を開催します。海水温上昇や磯焼けの影響により多くの漁獲物が減少する中、近年延縄漁の漁も安定し、比較的好調な対象種です。現在トラフグ漁をなさっている方、或いは今後の対象として興味をお持ちの方は、ぜひご参加ください。（参加申込不要、当日受付）

日 時：令和5年12月5日（火）16時00分～17時15分

場 所：神奈川県水産技術センター 1階セミナー室

内 容：

- ・神奈川県トラフグ採捕動向と東京湾における遊漁船による釣獲量試算 水産技術センター技師
- ・神奈川県産親魚を用いた種苗生産 水産技術センター主任研究員
- ・千葉県におけるトラフグの漁獲状況と標識放流試験について 千葉県水産総合研究センター主任上席研究員
- ・標識追跡からみた北日本海域におけるトラフグの移動回遊事例の紹介と年齢査定を通じた地域特性の重要性について （国研）水産研究・教育機構 資源生産部主任研究員